

令和6年度全国学力・学習状況調査結果より 庄内管内の現状と、明日への一歩に向かって

今年度の全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。庄内管内と全国の比較では、小学校・中学校の全ての教科において全国平均を下回り、特に小学校算数では大きく下回るという、大変厳しい結果となりました。この結果を庄内管内の先生方全員で“危機感”として捉え、“自分事”として子どもたちの学力向上に努めていきましょう。

本調査では、学習指導要領に基づいて、特に重視される点や身に付けるべき力が具体的に示されている問題が出題されています。各校における問題ごとの正答率等を分析し、付けたい力を明確にした授業づくり、子どもたちが主体的に学びを進める授業づくりを“共に一歩前へ”進めていきましょう。

結果については、分析を行うとともに、活用について各校のアクションプランでご報告いただき、ありがとうございました。自校の実態・課題を全教員で共有し、具体的な取り組みを通して、子どもたちの確かな学力の育成をめざした授業づくりを進めていただきますようお願いいたします。

庄内の教科ごとの正答率

	国 語		算 数・数 学	
	小学校	中学校	小学校	中学校
全 国	67.7	58.1	63.4	52.5
山形県	66	58	59	51
庄 内 全国比 (昨年度)	やや下回る (やや上回る)	やや下回る (ほぼ同値)	大きく下回る (やや下回る)	やや下回る (ほぼ同値)

【庄内の表記について】

±0～1ポイント…ほぼ同値 ±1～2ポイント…やや上回る・やや下回る ±2ポイント以上…大きく上回る・大きく下回る

質問紙から見えること

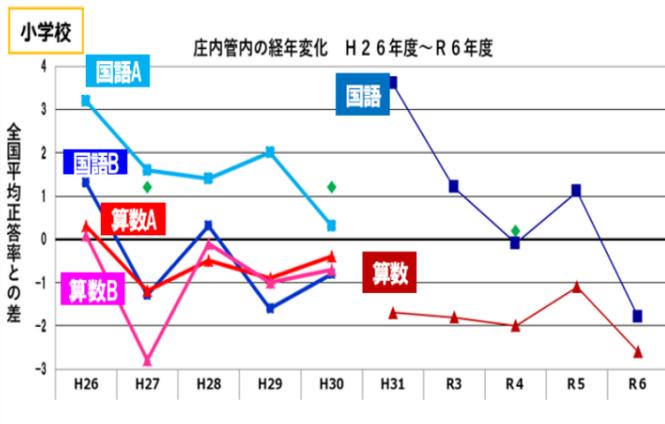
数値は「あてはまる」「ややあてはまる」の割合(%)

○:庄内が全国を3ポイント以上上回る項目
 ▲:庄内が全国を3ポイント以上下回る項目

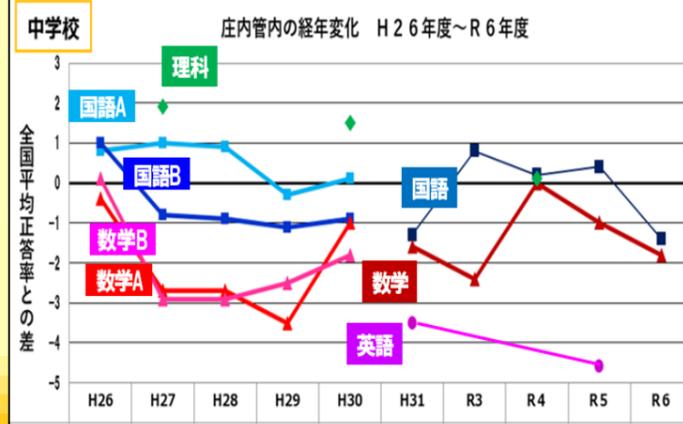
項 目	小学校			中学校		
	庄 内	山形県	全 国	庄 内	山形県	全 国
1 国語の勉強が好き	○67.6	68.1	62.0	▲61.1	65.4	64.3
2 国語の授業内容はよく分かる	88.4	86.5	86.3	80.9	82.0	82.7
3 算数・数学の勉強が好き	▲57.7	58.2	61.0	○60.4	57.7	57.2
4 算数・数学の授業内容はよく分かる	▲78.8	78.3	82.1	76.5	73.8	75.7
5 理科の勉強が好き	○88.9	87.3	83.6	○75.5	75.8	68.3
6 英語の勉強が好き	○73.5	71.4	69.3	調査項目なし		
7 英語の授業内容はよく分かる	80.2	75.8	78.3	調査項目なし		
8 児童生徒一人一人に応じた学習課題や活動の工夫	▲85.7	90.1	90.3	▲72.7	77.1	86.3
9 それぞれのよさを生かしながら、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるような学習課題や活動の工夫	92.8	91.9	94.5	▲81.8	91.7	94.0
10 PC・タブレット等の端末の授業での活用(週1回以上)	▲94.6	96.9	99.2	100.0	96.8	98.5
11 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫	▲75.0	81.1	87.4	▲77.2	86.5	86.6
12 自分と違う意見について考えるのは楽しい	77.2	74.9	75.8	○79.7	78.0	76.2
13 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	82.5	83.7	81.8	81.4	81.6	79.7
14 普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある	92.3	92.7	91.7	90.9	90.4	89.8
15 自分には、よいところがある	84.6	84.0	84.1	85.4	84.4	83.3
16 地域や社会をよくするために何かしてみたい	○87.6	85.4	83.5	○81.0	80.8	76.1

- 【1～7】について、小学校の国語・理科・英語、中学校の数学・理科で、「勉強が好き」の割合が全国を上回っている一方、正答率が全国を大きく下回った小学校算数では、「好き」「よく分かる」ともに全国を3ポイント以上下回っている。「好き」と「分かる」の好循環による授業改善を図る必要がある。
- 【8、9】について、どちらも全国を下回っている。クロス集計の結果からも、「個別最適な学び」「協働的な学び」の両方に取り組んだグループの正答率は他のグループより高いことから、「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点を取り入れた授業づくりが必要である。
- 【10】については、小学校で全国を下回っている。使用頻度と正答率とのクロス集計から「週3回以上」活用している学校の児童生徒の正答率が最も高い。引き続き、「ICTの効果的な活用」を図っていく必要がある。
- 【11】については、小・中学校ともに昨年度と比べて下降している。また、全国平均を下回っている。「習得・活用・探究」場面をバランスよく取り入れた単元づくりを進めていく必要がある。
- 【12、13】については、庄内の児童生徒の強みの1つと考えられる。多くの学校で取り組んでいる「対話的な学び」を主題や視点に取り入れた学校研究を着実に進めていくことが、「好き」「よく分かる」授業につながっていくものと考えられる。
- 【14、15】については、小・中学校どちらも前回から上昇するとともに、全国を上回る傾向である。
- 【16】については、全国を大きく上回る結果となっている。地域をよくしていこうという地域社会への参画意識が育成されている。

庄内管内の経年変化<小学校>



庄内管内の経年変化<中学校>



学力調査の結果から見えること(全国平均との比較) ○よさ ●課題

【国語】

小学校	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと	<知識・技能①言葉の特徴や使い方に関する事項>
	○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること	<思考・判断・表現 B 書くこと>
	●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること	<思考・判断・表現 A 話すこと・聞くこと>
中学校	○文脈に即して漢字を正しく書くこと	<知識・技能①言葉の特徴や使い方に関する事項>
	○表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること	<思考・判断・表現 B 書くこと>
	●文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること	<思考・判断・表現 C 読むこと>
	●資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと	<思考・判断・表現 A 話すこと・聞くこと>

小学校国語では、本設問以外にも記述式の正答率が全国より高かった。ただ、条件をすべて満たしていないことによる誤答があり、目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くことに課題が見られた。主語や文末表現を意識して、事実と考えを適切に区別しているかを捉えることが大切である。

正答率 全国 56.6% 庄内 57.0%
無解答率 全国 4.9% 庄内 4.1%

藤田さんの発言と図を関連付けて捉えることに課題が見られた。聞き手の理解をより深めるために、どのような資料や機器が必要か、また、それらどのような状況を想定することが大切。また、実際に用いた資料や機器が効果的であったかについて、聞き手と共に振り返る場面を設定することも考えられる。

二高山さんは、次の「高山さんの文章」の「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。B書くことウ

高山さんの文章

みなさん仲良く「たてわりはん」わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対峙で行います。上級生が下級生に伝える方法を教えたり、下級生も楽しむように、さようごの作戦を考えたりします。「みんなでつなぎをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに楽しんで熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになることだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に話したり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールを、上げるようにしています。

条件

○「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。

○「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。

○六十文字以上、百字以内にとめて書くこと。

二「話し合いの一部」の線部②「(図)のこのあたり」にいるような感覚ですね。について、(図)の中で、藤田さんが指し示していると考えられる部分を○で囲みなさい。

フィルターバブル現象

自分の好む情報「だけ」に囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

賛成 賛成 賛成 賛成 賛成 賛成 賛成 賛成 賛成 賛成

反対 反対 反対 反対 反対 反対 反対 反対 反対 反対

正答率 全国 68.5% 庄内 64.1%
無解答率 全国 3.5% 庄内 3.0%

小学校国語【第五・六学年】思考力・判断力・表現力等 B書くことウ

中学校国語【第二学年】思考力・判断力・表現力等 A話すこと・聞くことウ

【算数・数学】

小学校	○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること	<知識・技能 Dデータの活用>
	○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できること	<思考・判断・表現 Dデータの活用>
	●除数が小数である場合の除法の計算をすることができること	<知識・技能 A数と計算>
中学校	●速さの意味について理解しているかどうかをみること	<知識・技能 C変化と関係>
	○一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解していること	<知識・技能 C関数>
	○グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈できること	<知識・技能 C関数>
	●連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すこと	<知識・技能 A数と式>
	●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること	<思考・判断・表現 A数と式>

小学校算数【第五学年】知識及び技能 A数と計算 (3) 小数の乗法、除法

4 あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。家から学校までの道のりは、540mです。あいなさんの歩はばを0.6mとします。

家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

正答率 全国 70.1% 庄内 61.1%
無解答率 全国 3.1% 庄内 3.5%

○正答 540÷0.6=900
×誤答例 540÷0.6=90 (全国 16.1% 庄内 23.2%)

現状・実態 筆算をする際に、除数の小数点の処理の仕方に誤りがあり、商が90という誤答に陥っている。0.6のみ10倍して整数にし、540÷6を計算している。

課題解決のために 「540÷0.6」と「小数点の処理の際に、除数と被除数をともに10倍した5400÷6」の商がどちらも90であることを体得させたい。ただ単に、計算の技能の習得にならず、概念形成を授業の中で育むことが大切である。

中学校数学【第二学年】思考力、判断力、表現力等 A数と式 (1) 文字を用いた式

6 構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察すること(頂点の数の和)

(2) 次の図は、千夏さんと優真さんが考えてかいたもの。

千夏さんは、図2、図3、図4を見ながら、○に入れた整数の和と□に入る整数の和の間に何か関係があるのではないかと考え、次のように調べてみました。

調べたこと	○に入れた整数の和	□に入る整数の和
図2	$1 + 3 + 6 = 10$	$4 + 9 + 7 = 20$
図3	$(-2) + 8 + (-1) = 5$	$6 + 7 + (-3) = 10$
図4	$0 + 1 + 2 = 3$	$1 + 3 + 2 = 6$

前ページの調べたことから、 $20 = 2 \times 10$ 、 $10 = 2 \times 5$ 、 $6 = 2 \times 3$ のように、「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の2倍になる」と予想することができます。この予想が成り立つことを説明します。下の説明を完成しなさい。

説明

○に入れた整数を a 、 b 、 c とすると、3つの□に入る整数は、 $a + b$ 、 $b + c$ 、 $c + a$ と表される。それらの和は、

$$(a + b) + (b + c) + (c + a)$$

正答率 全国 35.9% 庄内 29.9%
無解答率 全国 23.5% 庄内 22.7%

○正答略 (中学校数学 解説資料 P25 参照)
×誤答例

- ・「 $a+b+c$ は○に入れた整数の和だから」の記載がない (全国 20.4% 庄内 14.9%)
- ・「 $2(a+b+c)$ の式変形までで記述が終了しているもの、条件の記載なし」(全国 7.6% 庄内 9.4%)
- ・「 $2a+2b+2c$ と式変形し、条件の記述が不十分なもの」(全国 7.5% 庄内 8.5%)

現状・実態 正答の条件をすべて満たしていない記述が多い。

課題解決のために 本設問を使って授業を行う際には、「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の2倍になる」ことを説明するために、□に入る整数の和を表した式を $2 \times$ (○に入れた整数の和) の形にすればよいという見通しをもち、それに沿って式を変形する場面を設定することが大切である。その際、誤答例のように表現した状態にとどまっているものなどを取り上げ、説明を洗練させていく活動を取り入れることが考えられる。